

## 中期延長留学報告 ～人生を変えたかけがえのない時間～

東義大学校  
国際文化学部生（中期延長）

私は、韓国の釜山にある東義大学に10か月間留学をしました。この留学を通して、自分を信じて努力し続けることの大切さを学びました。

今回の留学は例年とは違い、新型コロナウイルスが蔓延している真っ只中の留学でした。留学が中止になることを想定しながらの準備だったため、毎日不安な日々が続きました。実際、一度留学が中止になりました。私は、今年必ず留学に行く決めていたので、本当にショックでした。しかし、一か月後に奇跡的に留学を再開するという通知を受けました。嬉しかった半面、また中止になるのではないかと不安は消えず、入国直前までいつ留学が中止になるのか分からない状態が続きました。

入国の日、中部国際空港からではなく成田国際空港から行くことになりました。空港まで交通機関を使って行くのも危険くらい新型コロナウイルスが蔓延していたため、車で向かうことにしました。しかし、その日に限って数十年に一度の大雨が降り、高速道路が通行止めになりました。通常5時間で到着するところを11時間かけて到着しました。この時は、本当に韓国に行けないのではないかと思いました。そのため、無事に韓国に到着したときは安堵しました。そして、入国審査を受け、釜山に到着したらすぐ2週間の隔離に入りました。正直2週間外に出られなかったのは本当に辛かったです。食事も口に合わなかったのも、目に見えて分かるほど体重が落ちました。このように、多くの予想外な出来事が起きたため、より一層留学生生活を充実させようという思いが強くなりました。

隔離生活が終わり、語学堂が始まりました。語学堂とは、留学生が韓国語を学ぶところです。最初にレベル分けテストがあるため、自分に合ったレベルのクラスで韓国語を学ぶことができます。私のクラスはベトナム人9人、モンゴル人2人、中国人1人、日本人3人でした。元々あったクラスの中に日本人3人が入って勉強をするという形でした。日本人以外の生徒は、先生が生徒に向かって投げかける質問に対して積極的に発言していました。最初は先生に質問されないと発言できなかった私でしたが、時間が経つにつれて自ら発言できるようになりました。

語学堂で勉強したての時は先生の話していることを理解することができず、先生が冗談や面白いことを言ったときにみんなは笑っているのに私は理解ができなかったことが多々ありました。とても悔しくてもっと先生の話聞き取れるようになりたいと思いました。そのため、語学堂が終わった後も毎日欠かさず勉強をしました。しかし、勉強量に対して実力が追いついてこず辛い日々が続きました。それでもあきらめたくないと思い、分からないところは全て先生のもとに聞きに行き解決しました。その結果、語学堂が終わる頃には先生の話す言葉をすべて理解できるようになりました。

語学堂のほかに、本科の授業である実用韓国語という授業を履修しました。実用韓国語は非対面の映像授業でした。語学堂の先生は韓国語をゆっくりはっきりと話してくださりますが、実用韓国語の先生は話すのが早いうえに言葉も聞き取りづらくて最初は聞き取るのに苦戦しました。何を言っているのか分からなかったのも、字幕を付けて分からない単語があれば翻訳機で調べて授業を受けました。本来の授業時間の何倍もかけて授業を聞いたので、授業の最後の方には字幕をつけなくても聞き取れるようになりました。これを実感できた時はすごく嬉しかったです。

私は元々中期留学生として派遣されたので、本来はここで秋学期が終了して帰国をしますが、留学に来たからにはもっと韓国語を上達させたいという思いが強かったため、留学の延長を決意しました。

春学期は学部の授業を受けました。基本的に学部の授業は、現地の学生が履修する授業

に参加する形なので語学堂よりも難しかったです。

私が特に履修してよかったと思った授業は、グローバルリゾート産業論です。

この授業では、3人のグループを作ってプレゼンテーションをするというチーム課題がありました。グループごとに一人選出して発表をする形式で計4回発表をしなければならず、そのうちの一回は私が発表をしました。人前で韓国語を使って発表することは初めてだったので少し不安でしたが、他のグループの生徒さんが、他のグループの発表よりも上手だったよと伝えてくださったのでその時はとても嬉しかったです。

グループ課題の準備では、韓国人の子が私のために分かりやすく説明してくれたり、分からないところがあったらいつでも言ってねと気を使ってくれたおかげで気楽にして課題に取り組むことができました。

また、春学期から活動を再開するサークルが多かったので軽音サークルに入りました。留学に来たからには、何か一皮むけるような大きな挑戦をしてみたいと思っていて、5月に開催した軽音サークルの公演会に参加しました。私の韓国語で歌う歌をたくさんの韓国人に聞いてもらい、今の韓国語の実力を知ることができたというのも公演をしようと思ったきっかけでした。緊張しましたが、声援や声掛けをしていただいたおかげで公演を楽しむことができました。発音がきれいだとたくさんの韓国人の方が言うてくださったので、大きく成長したのだと感じました。公演が終わった後に、すごく歌が上手であなたの歌声を忘れることができないと言われたときには、勇気を出して公演に参加してよかったと心から思いました。

このように、たくさんの思い出がある中でも、最も記憶に残っているのは寮生活です。寮は東義大学の敷地内にあり、自然豊かな緑で囲まれています。寮は1人部屋と2人部屋を自分で選択することができます。2人部屋の場合、自分でルームメイトを指定することができますが、指定しなかった場合ランダムでルームメイトが決定されます。私のルームメイトはフランスから来た交換留学生でした。常に韓国語で会話をしていたので韓国語の実力がかなり伸びたと感じています。外国人と一緒に過ごす文化の違いでストレスを受けるのではないかと不安を感じていましたが、実際にそのようなことは一度もありませんでした。時間があるときには一緒に散歩をしたり、映画を見たり、寮の休憩室でアイスクリームを買って食べたりする中で、本当の姉妹のように仲が良くなりました。お互いの国の特徴などを話したりすることも楽しかったです。また、ルームメイトと遊ぶときは様々な国籍の友達を交えて遊びに行くことが多かったため、韓国人、フランス人、ドイツ人、中国人、モンゴル人、ベトナム人などの幅広い国籍の人たちと仲良くなることができました。今は留学が終わりお互いに会うことが難しくなりましたが、いつか友達の故郷を訪れ、また再会できたら嬉しいです。

留学に行く前、周りの人に韓国留学に行くと言えば、“韓国語を学んで何になるの？” “韓国に留学したって意味ないじゃん” “趣味に走ったね” とマイナスな言葉ばかり言われ深く傷つき、悔しい思いをすることが多かったのですが、留学を通して言語を学ぶことが全てではないのだということを実感しました。自分を大きく成長させることができ、日本で経験のできないことをたくさん経験し学ぶことができた私にとって、10ヶ月間の留学生活は一生忘れられない最高の10ヶ月間になりました。



